

インテリアファブリック デザインのための教授法

—糸サンプルの制作過程から—

松本 美保子*

A Teaching Method for Interior Fabric Design

—Through the Process of Making a Yarn Sample—

Mihoko Matsumoto

要 旨 インテリアのなかで、ファブリックの果たす役割は非常に大きい。特に、布のバリエーションとコーディネートはインテリアデザインには欠くことのできぬ重要な要素といえる。この方法をわかり易く適切に教授することでインテリアファブリックの理解につなげたいと考えた。布地を知るためにはまず、布を構成する糸を理解させなければならない。そのため既製の糸サンプル収集方法の制作を行った。今回考察した教授法は異なる59種の糸を全員に配布し、この糸を使って糸サンプルの収集制作を行うという方法である。完成したボード作品は全員で観照し、糸の分類、レイアウト、更にその目的、生活面での利用方法、アイデアなどの表現方法をディスカッションする。これによりその表現方法には各個人に大きなバリエーションの違いがあることを認識させる。その結果、次の課題の提出時には学生は自分の気付かなかったところを吸収するという興味も増したようである。「教えることは学ぶこと」の言葉通り教授する側にも予想以上の成果が上がったと思われる。以下その教授法を記してみたい。

キーワード 教授法 ファブリック コーディネート

I. はじめに

現在、本学のインテリアデザインコースでは基礎織物を実習に取り入れている。これは住居や生活環境を快適にするためのモチーフや空間構成手法をインテリアファブリックで学ぶための基礎としてである。

インテリアデザインコース、工芸コース(基礎実習)共その教え方は基本である素材、色彩、技法をイメージと結びつけて表現するということは同じであるが、インテリアデザインコースの

学生には将来の職業、インテリア関係の就職に結びつけることを含み教えていかなければならない。また、実際にインテリア関係に就職した場合ほとんどの卒業生は最初に販売を経験することが多い。そこではいかにファブリック製品をグルーピングしディスプレイすると効果的かを体験させられる。

今回このディスプレイすることに興味を持つ学生が多いことを主眼におき学生の興味を引く課題は何かを考えてみた。

そこで普段何気なく眺めているインテリア製品に見られるカーテン、壁紙、床材などの見本帳に着目し、各社の見本帳の添付方法の違いなどを比較してみたが、その添付方法には各社それぞれの特徴があることが分かった。つまりこ

*本学助教授 インテリアファブリック
テキスタイルデザイン

のような見本帳にもそれぞれのコーディネートに神経を使い構成されているという事である。この見本帳を参考にインテリアファブリックの布地を構成する糸の収集添付を最初の課題に取り上げてみた。

ここでは糸の種類や太さを紙上で説明するだけでなく59種類の糸等(サンプル)を渡し各自収集添付する。この場合これらの与えられた材料をいかに効率よく画面構成するかに重点をおいた。完成した作品は全員でディスカッションするが、その結果学生がどのような視点で、添付したのか、背景のボードの色や効果が個々の作品で違いがあるが、すべてが学びの対象になったようである。

2作目の課題では最初に学んだ経験をいかして提出していることがうかがえた。また、講評で作品の評価をすることでお互いの長所、短所が分かり課題を見ることが楽しみとなっている点も、体験を基に楽しく学び充実しているなど、現代の学生に即した課題ではなかったと思われる。

インテリアデザインコースの学生の基礎織物の学習は、工芸実習と異なり、技術向上や制作重視に重きをおくのではなくあくまでも商品知識としての素材の理解を中心に行う。織物では、カーテン地、カーテンレース地、織壁紙、カーペット、絨毯、ベッドカバー、テーブルクロスなどをはじめそれらに付随するすべての布の理解と、そのコーディネートを必要とする色やスタイルなどの、造形的あるいは空間的なセンスを身に付けさせることを念頭に授業を行っている。

II. インテリアファブリックについて

・その語義

インテリア(interior)は内部という意味から建築用語として室内、建築や部屋の内部とある。¹⁾

ファブリック(fabric)は繊維で作った布地の総称で織物・編物・フェルト・不織布など、衣服または、装飾のために用いる生地一般を指す。織物のみを指す場合は織られた布地の意味で、

正式にはテキスタイル・ファブリックという。テキスタイルに関しての詳細は前報第26集と同様である。²⁾

・インテリアファブリックの意味

この二者が結合されて、インテリアファブリックとなると広義の意味ではインテリア(室内、部屋の内部)の中で使われるさまざまな形や種類のファブリック(織物、編物、フェルト、不織布など)製品とそれらの関連商品を指すことになる。³⁾

・インテリアファブリックの歴史

インテリアファブリック(布)は人間の長い歴史の中で簡便に使用できる素材として古くから多くの住まいに使用され、我々の暮らしに深く溶け込んできた。これらの布類は衣類と共に生活を豊かに演出する最適なものといえよう。

わが国では1970年代インテリア産業と言え、一般にカーテン、カーペットのようなテキスタイル業界のことを指していたが、この時代インテリア産業が質の高い住宅を目指しインテリアの向上にも力を入れるべく1973年、当時の通産省(現通商産業省)はインテリア産業振興対策委

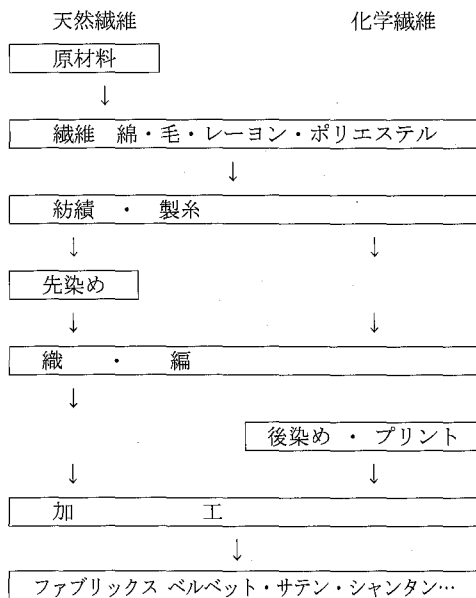


表1 ファブリックスへの工程

繊維の分類	呼び名		主成分	特徴	主な用途
天然繊維	植物繊維	綿 麻	天然繊維のセルロースで、 炭水化物が主成分	耐久性に富み、手触りが良 い。洗濯が容易。しわにな りやすい。紫外線に黄ば む。	カーテン、ソ フトファニシ ング、壁紙、 カーペット カーペット、 畳
		ヤシ繊維・い 草			
	動物繊維	絹	昆虫の繭 たんぱく質が主成分	しなやかな手触り。しわに なりにくい。染色性が良 い。 保温性が良い。吸湿性があ る。	カーテン、ソ フトファニシ ング、カーペ ット
		毛	哺乳動物の体毛 たんぱく質が主成分		
化学繊維	再生繊維	レーヨン	再生セルロースが主成分	染色性が良い。きれいなド レープが出る。防虫性。し わになりやすい。摩擦に弱 い。	カーテン、ソ フトファニシ ング
		キュプラ	銅アンモニア法により製 造された再生セルロース が主成分		
	半合成織 維	アセテート	酢酸セルロース繊維	染色性が良い。防虫性があ る。摩擦に強い防虫・防カ ビ性。黄ばむ。帯電性があ る。	カーテン、ソ フトファニシ ング、カーペ ット
		プロミックス	たんぱく質を30%以上 60%未満含むビニル系織 維		
	合成繊維 の一例	ナイロン	アミド結合による繊維	耐候性があり、摩擦に強 い。保温性がある。帯電性 がある。防虫・防カビ性が ある。	
		アクリル	アクリロニトリル繊維		
		ポリエステル	エステル繊維		
		ポリプロピレ ン	プロピレン繊維	軽い。吸水性がない。	
		ポリクラー ール	塩化ビニル35%以上65% 未満、その他はビニルアル コールを含んだ繊維	柔らかく、保温性がある。 耐候性がある。防虫・防カ ビ性。	

表2 代表的な繊維の種類と特徴

員会を設置し、その振興を図った。

こうしたなか、1979年社団法人日本インテリアファブリックス協会が設立され、それまではばらばらに個々に製造されていた製品をトータルインテリアとしての方向へ発展させた。⁴⁾

その要因には日本人の生活が豊かになり自分のライフスタイルや好みに合った住空間を強く求めるようになったという背景がある。

ここにトータルインテリアという概念が急速に普及し始め、カーテン、カーペットなどを上手にコーディネートしたインテリアが数多く見られるようになった。⁵⁾

・インテリアファブリックの特性

インテリアの中で使われているファブリックの性能は繊維、糸、布などの種類によってさま

ざまな変化を表す。また、それらの加工法なども理解する必要がある。それぞれの特性は生地見本で、性能やメンテナンスの仕方については見本帳に記載された品質表示や取り扱い表示を理解しなければならない。表1、⁶⁾

Ⅲ. 糸サンプルについて

ファブリック素材には繊維、なかでも糸を使う場合が多い。このファブリックに適した素材には天然繊維(綿、麻、絹、羊毛)をはじめ、化学繊維、また天然繊維との混紡など繊維の種類は非常に多く、更に後加工による繊維の性状も日々進歩している。この糸に関しての詳細は前報第26集と同様であるが、インテリアファブリ

種類 ・ 価格 ・ / kg			種類 ・ 価格 ・ / kg		
1	1/3	¥2700	31	3/10 アルパカ100%	梳毛 ¥9400
2	1/1.75 スラブ	梳毛 ¥2900	32	3/8 シルク30%ウール70%	梳毛 ¥5900
3	1/1.75 スラブ×1/5スラブ	梳毛 ¥2900	33	2/8 シルク30%ウール70%	梳毛 ¥5900
4	1/1.75 スラブ×1/30×1/30	梳毛 ¥2900	34	2/7 チバット	梳毛 ¥4200
5	3/5 ロービング	梳毛 ¥2900	35	3/7 チバット	梳毛 ¥4200
6	3/7 ロービング	梳毛 ¥2900	36	2/16 アンゴラ	紡毛 ¥3600
7	2/20 甘燃ラム入	梳毛 ¥2900	37	4/20 アルパカ60%キッドモヘア20%ウール20%	¥7800
8	2/14 ラム入70%	梳毛 ¥2900	38	シルクスラブ	¥6800
9	1/6 タムタムモヘア	梳毛 ¥4400	39	60/6 麻	¥2700
10	1/3 タムタムモヘア70%羊毛30%	梳毛 ¥4200	40	40/2 麻	¥2700
11	1/1.5 スラブリングモヘア入	梳毛 ¥7500	41	16/2 麻	¥3200
12	2/4 ファンシーヤーン	梳毛 ¥3700	42	14/4 リネン	¥2600
13	1/2.9 カールヤーン	梳毛 ¥3700	43	7/1 ケナフ	¥1600
14	2/18 特絹糸	¥4900	44	60/3 麻	¥2700
15	1/8.6 ループ	梳毛 ¥3200	45	5/4 綿	¥1600
16	1/2 ループモヘア	梳毛 ¥3200	46	10/4 綿	¥1500
17	2/6 ペニーシルク	¥13800	47	5/1 スラブ×8/1綿	¥1900
18	1/45 シルクモヘア	¥7700	48	20/2 綿	¥1300
19	1/3 梳毛	¥2700	49	20/3 綿	¥1500
20	3/3	梳毛 ¥3100	50	20/4 綿	¥1500
21	3/3 ロービング	梳毛 ¥3100	51	20/6 綿	¥1900
22	5/3	梳毛 ¥3100	52	20/12 綿	¥1900
23	5/3 ロービング	梳毛 ¥3100	53	20/24 綿	¥1900
24	1/3 スラブ×1/30×1/30	梳毛 ¥2700	54	20/36 綿	¥1900
25	1/4 ソフトループ	梳毛 ¥3800	55	20/75 片撚り	¥1900
26	4/18	梳毛 ¥3000	56	原毛ロムニー白	¥3600
27	2/10 モヘア入り	梳毛 ¥2900	57	原毛ロムニー焦げ茶	¥3600
28	1/5 スラブ	梳毛 ¥2900	58	アルパカヘアートップ	¥7800
29	2/20 甘撚り	梳毛 ¥2700	59	グース(10g入り)	¥200
30	3/6 アルパカ50%ラム50%	¥7800			

表3 糸素材サンプル表

ックとしての繊維となると別表2に見られるように多岐にわたり、中でも寝装品に使用される動物繊維の羽毛などは我々の生活に結びつき、馴染み深いものである。

・糸サンプルへの試み

インテリアファブリックの布地を構成する糸

の収集添付を通して、その種類、素材、形態、価格を含みいかに時代に即したのができるか、完成した作品を全員でディスカッションすることにより学生が「効果的な添付方法とは何か」をどの課題に対しても、コーディネートにおける色彩、レイアウト、レタリング、連作として

の展開、季節感、時代感など、いろいろな角度から展開できるように指導した。

IV. 教授法

・教授法意図

自分自身ですべてを表現するのではなく、与えられたもので、しかも相手のニーズを考慮するという制限のなかで、センスある表現を学ばせるにはどのように教授すべきか。特に織物という手作業技術向上ではなく、繊維の特性等も学びつつ、いかに相手にアピールするののかということも授業のなかで教えるにはということを含み、効果的な添付方法を課題として授業を行った。以下、その授業方法とその考察点を記してみる。

・課題1

- ・テーマ「糸サンプル」
- ・提出方法 A3ボードに添付(ボードの色、枚数、レイアウトは自由)
- ・テーマの「糸サンプル」をボードに記入しクラス番号、氏名も記入する

この課題に対して最初に学生全員にファブリック素材59種類(綿、麻、絹は30cm程度原毛20mg、羽は1つ等)及び1～59種類の素材説明プリントを配布する。表3

提出期限は課題説明より3週間とし、時間的余裕を持たせる。参考のために昨年度の作品数点を見せながら配布プリントの説明をする。

この課題には配布したファブリックの資料が59種類という中途半端な数であり、素材の種類も統一がなくばらばらであるという条件のもとでの糸サンプル制作であるため、学生の質問もこの点についての疑問が多く、59種類の素材をすべて添付するのか?また1枚のボード内で完成させるのかなどの質問に集中した。

しかしこれは最初から意図したことでありこうした一見不自然な条件のもとで学生がいかにオリジナリティを發揮できるか、学生の創意工夫に期待することは大きかった。

・課題提出

3週間後、提出ボックスを用意し授業の始めに提出させた。各自作品を裏返しにして目立たぬように提出しているが、作品完成の達成感がお互いの会話から随所にかがえた。

・作品評価

提出された作品の添付方法はいくつかの方法に分類される。

添付方法は配布したプリント順に並べたものが多数を占めたが以下2つの方法に分類された。

- ①素材(糸)に触れることのできる添付方法
- ②直接素材(糸)に触れることのできない添付方法

①の場合59種類個々にポリプロピレン性のクリアホルダーに入れ素材を出し入れする方法のものや、素材の形状は基本的には台紙に素材(糸)を直接巻きつけてボードに構成したものが多かったがその他糸状、渦巻状のもの、花型、洋服型、ローマ字型にまとめたものも①に多く見られた。図1. 2. 3. 4参照

これらの素材の固定には従来の糊、両面テープに加えICテープを効果的に使ったものが人目を惹いた。

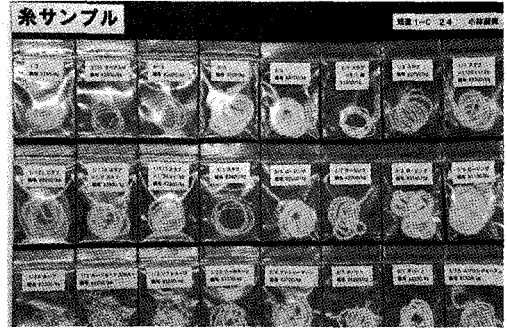
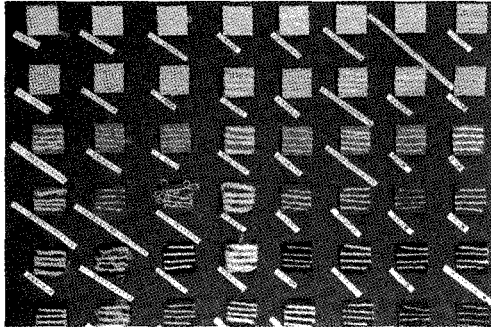
更に①の例でサークルをコラージュし添付したのものや、少女のポートレートを使いその衣装(帽子、コート、手袋、ブーツ等)に見合った素材を添付した学生ならではのユニークな作品もあった。図5参照

②の直接、(糸)に触れることのできないグループはラッピング技法などを用いて添付している。この特徴は模造紙やパラフィン紙を適宜使い形態イメージを中心にディスプレイ感覚で見える方法で、ラッピングすることにより飾るという考えを前面に出し装飾性重視に徹している。

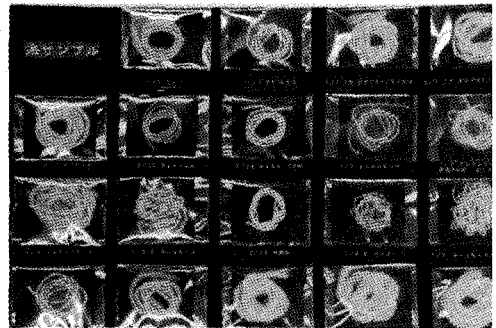
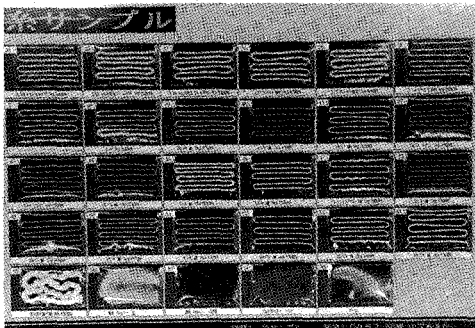
これらは1枚の作品のみでなく2～3枚の連作が多かった。図6参照

作品全体のレイアウトはボードの色や添付した糸の配置、テーマの「糸サンプル」のアレンジや各自の氏名などのレタリングにもそれなりに神経を使い自分たちの考え方にオリジナリティがあるとの認識を示した結果になった。

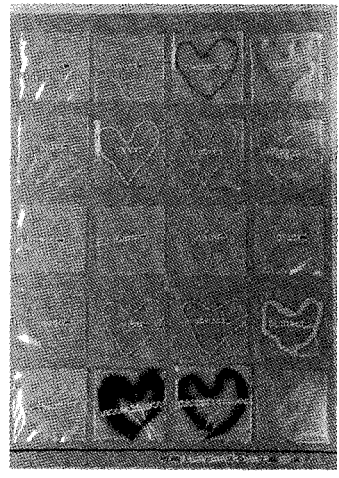
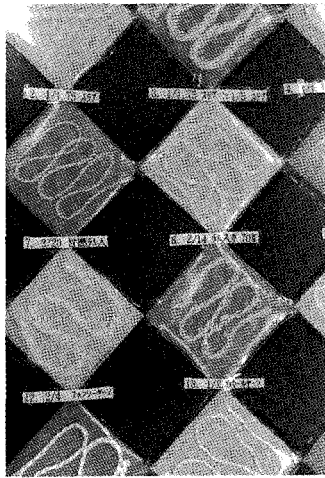
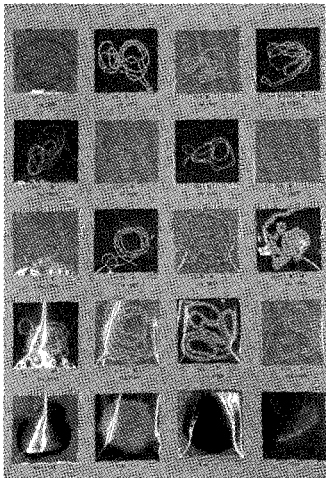
①素材(糸)に触れることのできる添付方法(図1)



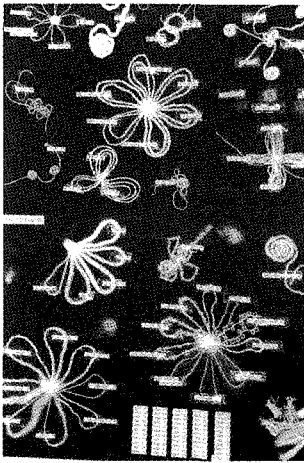
①クリアホルダーに入れ素材を出し入れする方法(図2)



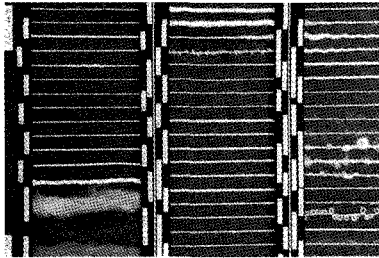
②直接素材(糸)に触れることのできない添付方法(図3)



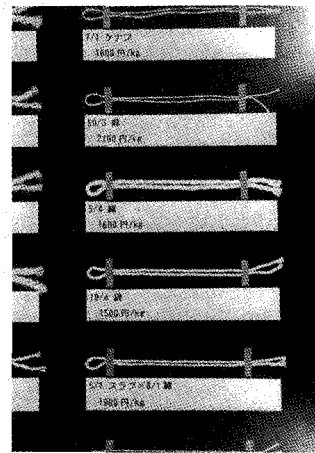
①素材(糸)に触れることのできる添付方法(図4)
 -バリエーション-



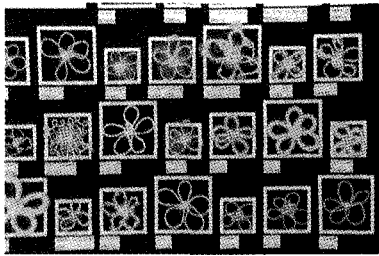
花型



糸状

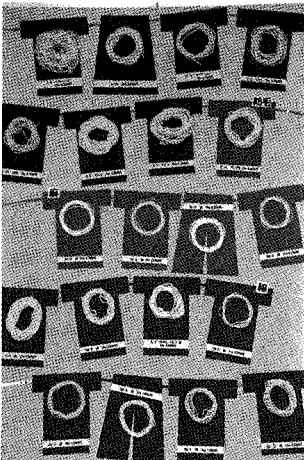


糸状

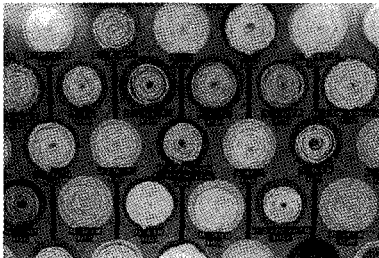


花型

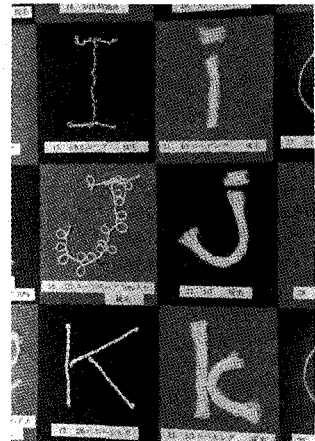
洋服型



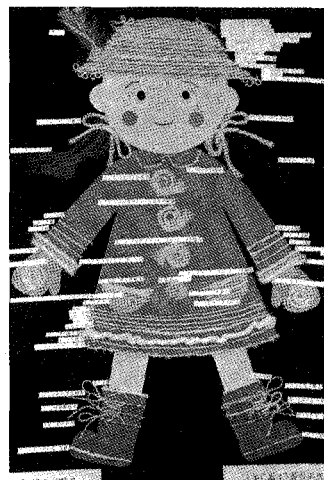
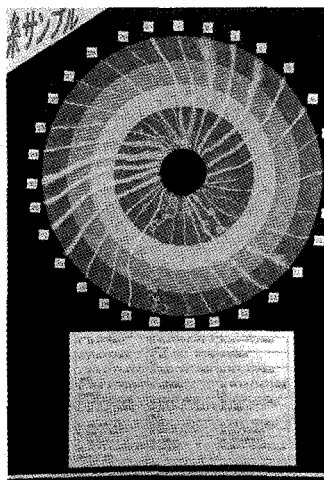
渦巻



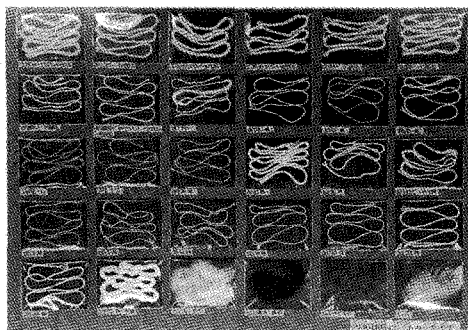
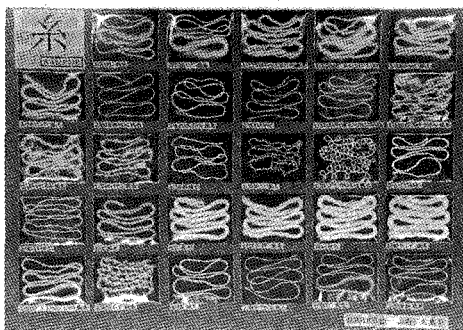
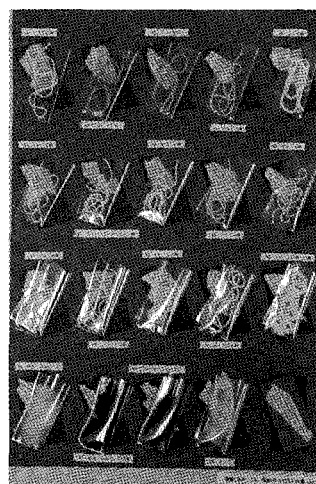
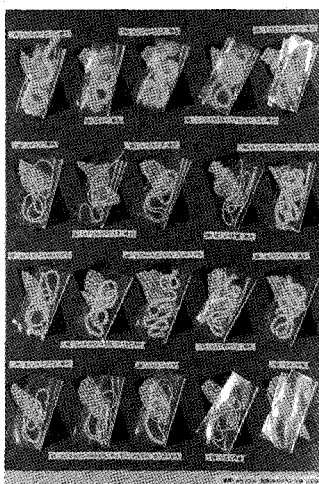
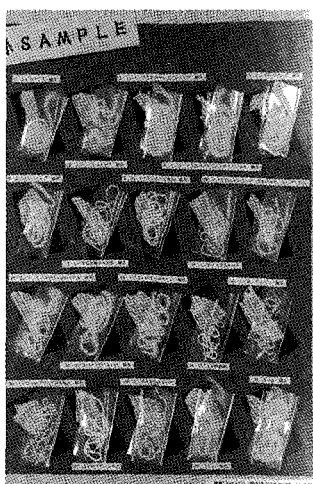
ローマ字型



①素材(糸)に触れることのできる添付方法(図5)



②直接素材(糸)に触れることのできない添付方法(図6)



・結果

作品の講評はディスカッション形式で行ったが学生は1枚のボードと複数の連作での表現の違いを直接学ぶことができる全員の講評に興味を持ったようである。

作品には表のレイアウトばかりではなく裏面の処理も表面同様大切であることを学ばせる。また、作品をポリプロピレン性のクリアホルダーに入れた場合、そのまま提出した作品よりも質が高くみえるのはなぜか等、提出物すべてに細心の注意を払うことでコーディネート、カラーコーディネートというものが相対的なものであることを理解したようであった。

ディスカッション後の学生の感想は細部の処理に集中したが、すでにあるフォルムに素材を入れ込む方法、スチレンボードに糸を巻き糸の太さを知る表現、また素材の色を知るには白、黒などのモノクロームの台紙を使うと鮮明に分かる等この課題を通して学ぶことができたとの意見が多かった。

V. 結 語

今回の課題は織物実習の一環として行ったものである。織物を学ぶ課程で素材に触れ、その組み合わせで作品に大きな違いが生じること、また全体のコーディネートが如何に大切かを学ばせるのが目的であったが更に現代学生の興味を如何に持続させ創造力を伸ばし来るべき就職に際し人材育成の基礎に役立つようにこの課題を取り入れた。その結果、この「糸サンプル制作」の授業にはいくつかの利点を挙げる事ができた。

1. ファブリック素材としての糸(綿、麻、絹、羊毛)や原毛、羽毛59種類を知り素材への興味を持ったこと。素材の番手で糸の太さの違いを知ることができたこと。とともに、それらを相手に興味をもたせ素材に触れたいくなるようなレイアウトがファブリックの原点であること。
2. ファブリック素材の色はすべて白あるいは生成りのナチュラルカラーと考えていたようだ

が麻には亜麻色、アルパカにはキャメルカラーもありすべての繊維それぞれに素色がある事を学び興味を深めたようである。

3. レイアウトは59種類の素材をボード1枚か、連作でまとめるか。添付する糸の量や貼る範囲、殊に羽毛や原毛をどのように糸の中に入れて込んでレイアウトするか。テーマの「糸サンプル」や氏名のレタリングをボードのどの部分にレイアウトするかで作品をよりアピールする事ができるか。

以上3点が制作にあたり注意した点であった。

その結果、この3点を考慮して制作された作品は全体的に完成度のある見ごたえのある作品に仕上がった。全員で作品を観照し、学びの原点は何かを他人の作品からも吸収しその審美眼も育ったようである。

以上のような観点から行った授業であったが教師の側からも学生が何に興味を持ち、流行色や花のフォルムやハートの型で分かる時代感覚を教えられた事は非常に有意義であった。一方的に教えるのではなく、時代という流動的なものに対する課題の提示方法には、これからも多角的に考え新たな課題作りを模索していきたいと思っている。

引 用 文 献

- 1) 小学館 ランダムハウス英和大辞典 第4巻 小学館 1974年
- 2) 松本美保子 テキスタイルデザインにおける発想の手がかり—創作糸による教授法—文化女子大学紀要 服装・生活造形学研究 第26集 p. 87(1995)
- 3), 6) 生活文化とインテリア1 暮らしとインテリア 社団法人 インテリア産業協会(1997)
- 4) 編集代表 小原二郎 インテリア大事典 彰国社 壁装材料協会 (1994)
- 5) 素敵・快適 インテリアファブリックス 社団法人 日本インテリアファブリックス協会 (2000)

参 考 資 料

- 1) 糸新商店 一宮市真清田2-3-8(2004年料金より)